

第5回定例研究会

「谷崎潤一郎―住居と作品舞台の『箱』的關係―」

第5回定例研究会は、本学文学部教授のたつみ都志先生をお招きして、「谷崎潤一郎―住居と作品舞台の『箱』的關係―」というテーマで講演いただきました。たつみ都志先生のご経歴は、下記の通りです。

【講師プロフィール】

専門：日本近代文学特に谷崎潤一郎研究

文学と場所をキーワードに、文学の立ち上がる空間にこだわって近代文学を解説する。1974年から谷崎文学研究を始め、1977年から、まだ明らかにされていなかった関西における谷崎の動向を追求しだした。転居魔谷崎の旧宅をくまなく調べ、作品の舞台を踏査して、1985年『ここですやろ谷崎はん～谷崎潤一郎・関西の足跡～』を著した。その後『細雪』の舞台である神戸市東灘区の谷崎旧邸の保存運動を地元住民とともに進め、1990年『倚松庵（いしょうあん）』と名づけて移築保存に成功。

また谷崎潤一郎が自らデザインした唯一の家が1995年阪神大震災で全壊したことを憂い、『鎖瀾閣（さらんかく）』と名づけて地元の住民とともに復元運動を始めた。資金集めに奔走して13年目の2008年、建築資金である6,000万円の目標を達成、建設が実現可能となる。が、復元予定地として震災直後から候補地となっていた神戸市岡本公園の拡張予定地の、周辺住民の一部が反対運動を始めたため、神戸市が設置許可を出せなくなり、復元を断念した。目下15年間の復元運動の一部始終を、ドキュメントに制作中。平成21年1月17日に公開予定。

主な著書に『ここですやろ谷崎はん～谷崎潤一郎・関西の足跡～』（1985年・広論社）

『谷崎潤一郎・関西の衝撃』（1992年・和泉書院）

講師

たつみ 都志 氏（武庫川女子大学文学部 教授）

テーマ

谷崎潤一郎―住居と作品舞台の『箱』的關係―

講演日

2009年12月19日（土） 14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205

申し込み

不要